

## 〔資料〕

# 「総合的な学習の時間」の実践研究における工夫と課題 —キャリア領域の文献からの検討—

松本 訓枝<sup>1)</sup> 亀山 智加枝<sup>2)</sup> 長瀬 仁美<sup>3)</sup> 山本 真実<sup>4)</sup>

## Considerations and Challenges in Practical Research on the ‘Period for Integrated Studies’: A Review of Japanese Literature on Career Education

Kunie Matsumoto <sup>1)</sup>, Chikae Kameyama <sup>2)</sup>, Hitomi Nagase <sup>3)</sup> and Mami Yamamoto <sup>4)</sup>

### I. 目的

今般の学習指導要領改訂において、学校教育で育む「生きる力」は社会で活用可能な力にまでより発展させて育成が目指され、総合的な学習の時間（以下、「総合学習」と略す）は「生きる力」との関連が強い（村川, 2018）。また、今般の学習指導要領では、総合学習が「学習指導要領に定められた目標を踏まえて各学校が教科横断的に目標を定めることは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵となる」（中央教育審議会答申, 2016）としている。総合学習はカリキュラム・マネジメント（註1）の中核にあり、教育課程編成の中心に位置付けられている。

こうした総合学習の位置付けから、どのような教育方法及び課題があるのかを明らかにすることは、総合学習の課題となってきた指導方法や校内体制の整備等の学校間格差（文部科学省・教育課程部会, 2018）の縮小の一助となり、さらに総合学習がカリキュラム・マネジメントの中核にある点からして、学校運営の在り方や今後の学校教育の在り方までをも含めて問うことに繋がる可能性がある。

これらの問題意識から、筆者らは教える側の力量に着目し、総合学習の実践を報告している研究（以下、「実践研究」と略す）の健康、福祉、国際理解、防災領域の文献をもとに、総合学習における工夫と課題を明らかにしてきた。そ

の結果、総合学習は、教科を超えた横断的・総合的な学習、体験的・問題解決的な学習であることから、4領域ともに学習への意識づけや学習への主体的な態度の育成に力点が置かれていた。また、領域ごとに相違があり、例えば、防災領域では、実感をともなった学びや実践に生かそうとする志向が強調され、領域ごとに独自の点も見出された（松本ら, 2020, 2021, 2022, 2023）。今後は、引き続き異なる領域の文献検討を積み重ね、総合学習の実践研究の工夫と課題に関わる共通性と相違を見出し、そのことにより今後の総合学習の授業づくり、総合学習の実践研究における工夫と課題の一般化、体系化に寄与することが可能になると考える。

今般の学習指導要領では、子どもたちが育成する資質・能力の三つの柱を示した。それは、①何を理解しているか、何ができるか、②理解していること・できることをどう使うか、③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかであり、とりわけ③は、キャリア発達、キャリア教育との関連が強い（中央教育審議会答申, 2016）。キャリア教育は、初期の頃は若者の雇用対策として望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせることを中心としてきた。しかし、その後一人一人が「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」を支援するための教育（藤田, 2018）へと生き方全体を視野に

1) 岐阜県立看護大学 機能看護学領域 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 育成期看護学領域 Nursing of Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing

3) 岐阜県関市立南ヶ丘小学校 前岐阜県立看護大学 育成期看護学領域 Minamigaoka Municipal Elementary School in Seki, Gifu Prefecture ; Former of Nursing of Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing

4) 浜松医科大学 医学部看護学科 地域看護学講座 Department of Community Nursing, Faculty of Nursing, Hamamatsu University School of Medicine

入れ、望ましい職業観や勤労観などの職業に関係したことに留まらず「生き方の教育」を志向している。社会の中で役割を果たし、どのように社会と繋がり関わっていくのか、自分らしい生き方について追求するのがキャリア教育の目指すところであり、アイデンティティ形成に関わっている。したがって、総合学習のキャリア領域においていかに社会と繋がりがあい、「生き方の教育」を目指しているのかを含めてどのような実践研究の工夫と課題があるのかを明らかにすることは、子どもたちのアイデンティティ形成、自分づくりの点から意義がある。また、人々が社会との繋がりを意識しながら、自分らしい生き方を追求する、ボランティア活動や住民組織活動に代表される互助の充実は、今後、人口構造が大きく変わる社会において、一人ひとりが住み慣れたコミュニティで健やかに生活することにも深く関わる。キャリア領域においての教育上の工夫と課題や、次世代が身につける考え方を知ることは、子どもたちが成人期や養育期を迎えたときの健康や生活を考える場面においても役立ち、ここに看護学領域への接点が見出される。

そこで本研究は、総合学習のキャリア領域に焦点化した文献を対象に教える側の指導方法に着目し、工夫と課題を明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 文献の選定

総合学習のキャリア領域における授業の実践研究について、CiNii Researchで検索のキーワードを「総合的な学習の時間」「キャリア」「実践」、あるいは「総合的学習」「キャリア」「実践」、「総合学習」「キャリア」「実践」とし、検索開始の年は設定せず2023年3月までで検索した。

本研究では、日本教師教育学会(2005)の定義を踏まえ、直接の実践を対象に実践の目的と方法及び成果として得た結果と結果を踏まえて考察が読み取れるものを実践研究論文とし、1) 目的と方法、成果として得た結果及び結果を踏まえての考察が明確に記されていない論文、2) 学術集会の発表要旨集、3) 実践報告、4) キャリア領域を中心にしていない論文、5) キャリア領域を中心としているが、授業実践を対象としていない論文、6) キャリア領域中心の授業実践であるが、総合学習を中心に展開していない論文を除外した。

### 2. 分析方法

対象の授業実践の指導方法の基盤となる指導の位置付けを整理するために、研究目的、授業実践の総時間数と対象学年、指導者と授業実践の年、授業実践の評価方法の記載を抽出し、研究者間で確認し表にまとめた。

次に、授業の工夫と成果として、各授業実践の授業目的に即して授業時に導入した工夫とそれによる児童生徒の変容を抽出し、抽出した内容からさらに工夫と児童生徒の変容を端的にまとめ、類似性により分類した。授業実践の課題は、対象文献の著者が課題であると述べている内容を抽出した。そして、それぞれ抽出内容により命名し、命名したものを類似性によりまとめ、意味内容を表す名前を付して表にまとめた。これら一連の過程は、研究者全員で確認し修正した。成果・課題は【】、工夫による成果、課題の内容から抽出した事項は[]で示した。

## III. 結果

### 1. 対象文献の概要

検索の結果、CiNii Researchで検索し選出された181件の中で重複文献17件を除き、164件が選出された。先の文献の選定で記述の除外する論文について研究者間で確認し、1) は15件、2) は10件、3) は48件、4) は40件、5) は12件、6) は30件を除外し、キャリア領域中心の実践研究は9件であった。

授業実践に係る研究目的と概要について、表1に示した。以下では、対象文献を表1で示した番号(No. 1～9)に即して記載する。

研究目的は、授業の効果の検討・検証が7件(No. 4～9)、授業の課題の検討が1件(No. 1)、授業の目的に即した教育方法の検討3件(No. 2～4)であった。また、地域と関連した研究目的が3件(No. 5～7)であった。

授業の総時間数は、11時間が1件(No. 9)、18時間が1件(No. 8)、23時間が1件(No. 1)、70時間が2件(No. 6, 7)、記載なしが4件(No. 2～5)であった。対象学年は、小学生が7件(No. 2～8)、高校生が2件(No. 1, 9)であった。小学校の実践が大部分を占めた。

指導者は、担任教諭を含めた教諭が8件(No. 2～9)、著者のほかに教諭が1件(No. 1)であった。授業実践の年は、2003年度が1件(No. 1)、2004年度が1件(No. 2)、2005年度が2件(No. 3, 4)、2013年度が1件(No. 6)、

表1 授業実践に係る研究目的と概要

文献 No.	著者 / 発表年	研究目的	授業の総時間数 / 対象学年	指導者 / 授業実践の年	評価方法
1	和井田 / 2005	高等学校の総合学習の中で試みたキャリア教育の評価を通して、カリキュラム開発上の留意点を明らかにする。	23 時間 / 高校 1 年生	著者のほかに教諭 2 名 (TT) / 2003 年度	活動の様子、感想の記述内容、アンケート調査の結果
2	渡邊 / 2006	小学校 6 年生段階の子どもに職業観・勤労観を育み、就労意欲を高める活動構成と支援を明らかにする。	記載なし / 小学 6 年生	教諭 / 2004 年度	インタビューの様子、感想の記述内容、発表・作文の内容、アンケート調査の結果
3	田原 / 2007	よりよい生き方を目指す子どもを育てるために、キャリア教育を機能させた総合学習の年間活動計画を作成し、実践することを通して、児童の「自己肯定感」「自己有用感」や「自分の未来に希望をもちよりよく生きていこうとする意識」が、どのように変容していくかを検証する。	記載なし / 小学 6 年生	教諭 / 2005 年度	ワークシートの記述内容、日記の内容、話し合いの内容、アンケート調査の結果
4	関 / 2008	将来に夢と希望をもち、努力する子どもを育むための活動構成と支援のあり方を本実践を通して検証を試みる。また、本実践が中学校段階に進んだ子ども達にどのように影響しているかについて追跡調査をすることによって、望ましい「職業観」や「勤労観」を形成していくためには、小学校段階でどのような実践が有効なのかを明らかにする。	記載なし / 小学 6 年生	担任教諭 / 2005 年度	作文の内容、発表の様子、アンケート調査の結果
5	長谷川 / 2015	郷土愛を育み、自己の将来について考える単元開発を行い、単元計画に基づいた実践を重ね、①単元における児童の活動や反応、②児童の実践後の振り返りや姿の変容からどのような社会的・職業的な能力や態度が育成されたかを検証する。	記載なし / 小学 5・6 年生	担任教諭 / 2013・2014 年度	感想の記述内容、見学先の関係者へのお礼の手紙の記述内容
6	池田 / 2015	身近な社会とのつながりに気づき、地域に主体的に参画する子どもの姿を自己のよりよい生き方を考える姿であるととらえ、その育成に向けてキャリア教育の視点から再構成した総合学習の単元開発を行い、授業実践を通して有効性を検証する。	70 時間 / 小学 4 年生	教諭 / 2013 年度	活動の様子、感想の記述内容
7	笠原 / 2016	地域振興に取り組むふるさとの人々の熱意や工夫に繰り返し関わらせ、自らの創意工夫を活かせるような参画型職業体験活動を行うことによりキャリア発達が促されることを明らかにする。	70 時間 / 小学 6 年生	担任教諭 / 記載なし	ワークシートの記述内容
8	川村 / 2019	自作思考ツール「わたしマップ」を中核とした総合学習の授業構成や活動の手立てについて、「自己理解」の深化と「キャリアプランニング能力」の形成における有効性を検証する。	18 時間 / 小学 6 年生	教諭 / 2018 年	発言内容、「わたしマップ」の内容、卒業後の手紙の内容
9	大里 / 2019	キャリア教育の基礎的・汎用的能力を構成する 4 つの能力の中のキャリアプランニング能力の向上を目指し、キャリアプランニングの体験的活動と、職業生活上の困難を乗り越えるスキルについて考える活動を取り入れたキャリア教育を総合学習を活用して実践し、その効果について探る。	11 時間 / 高校 2 年生	教諭 / 2019 年度	ワークシートの記述内容、感想の記述内容、アンケート調査の結果

2013・2014 年度が 1 件 (No. 5)、2018 年が 1 件 (No. 8)、2019 年度が 1 件 (No. 9)、記載なしが 1 件 (No. 7) であった。

授業実践の評価方法では、児童生徒のワークシート等の記述内容 (No. 1～9) や授業時の児童生徒の発言・行動 (No. 1～4, 6, 8)、児童生徒対象のアンケート調査の結果 (No. 1～4, 9) 等から児童生徒の変容を読み取って

いた。

## 2. 授業実践の工夫による成果

授業実践の工夫による成果について、表 2 に示した。

【興味・関心の芽生え】では「家族へのインタビューによる「働いて生計を立てること」への親近感」[ゲストティーチャーの講話による社会への親近感] [複数の職場体験を通

表2 授業実践の工夫による成果

成果	工夫による成果	文献 No.
興味・関心の芽生え	家族へのインタビューによる「働いて生計を立てること」への親近感	2
	ゲストティーチャーの講話による社会への親近感	3
	複数の職場体験を通しての大人への憧れ	3
	インタビューを通じた「職業」や「働くこと」への親近感と憧れ	4
郷土への誇りの芽生え	インタビューによる郷土への誇りの芽生え	5
	職場見学とインタビューによる郷土への誇りの芽生え	5
意欲的な姿勢	複数回にわたるワークシートの検討を通しての将来への希望の膨らみ	3
	生徒同士の学び合いによる主体的な学びの促進	1,8
	学習発表会による追究意欲の高まり	4
	参画型職業体験による主体的態度の高まり	7
	職場体験を通じた、よりよく生きようとする態度の形成	4
	多くの職業との触れ合いを通して、夢に向かってよりよく生きていこう、よりよい自分になろうとする態度の形成	3
	真摯に働く大人たちに接することによる努力することへの志向性	4
	インタビューを通じた郷土のよさの発信への意欲の芽生え	5
	地域の実情把握や他者との触れ合いによる目的意識の高まり	6
	真摯に働く地域住民との交流による意欲的な姿勢の形成	7
	地域住民へのインタビューによる職業や仕事への具体的な希望の芽生え	2
	地域住民へのインタビューによる日常生活向上への姿勢の形成	2
	ゲストティーチャーの講話による夢の具体化と夢の現実化への気づき	3
	「憧れの職業人」や「夢の職業人」からの回答による将来への具体的な志向性	2
	地域住民との交流による自らにできることを追求する態度の形成	7
現実への志向性	話し合いを通じた価値観の多様性と価値観の働くことへの影響の理解	2
	インタビューによる将来の夢の決定に向けた方策の多様性への理解	5
	調べ学習による目指す職業に就くための過程の理解	5
目標への方法・方略の理解	いくつもの職場訪問を通しての勤務観・職業観の形成	3
	働く人の講話による働くことの意義の理解	4
	職場体験を通じた、どの仕事も責任とプライドを所有することの気づき	4
働くことの理解	学級のため（目標）を通しての働くことの理解	3
	インタビューを通じた生き方の見直し	4
	話し合いを通しての生き方の振り返り	3
自らの生き方との対峙	見学先の人々との交流による生き方の振り返り	5
	ワークによる自分の「強み」の気づきと目指す未来像の追求	8
	教師との対話による自分の「強み」の発見と「強み」の複層的把握	8
自分探し	「わたしマップ」と「みらいびと」（「未来の働き方」を実践する人との出会い）の活動のリンクによる自分らしさの再構築	8
	全体での意見交流による自己理解の深化	8
	全体での意見交流による自己像の相違の自覚	8
自己理解	体験的活動を通じたキャリアプランニング能力の向上	9
	自己への気づきや困難を乗り越えるスキル学習による自己管理・課題対応能力の向上	9
	協同的な学びによる人間関係形成・社会形成能力の向上	9
キャリア教育における基礎的・汎用的能力	成功体験を通して感じた働くことへの充実感・満足感	7
	仲間づくりへの援助による充実感	1
	肯定的な評価を通して達成感	6
充実感・満足感	多様な視点を介したものの見方の深化	1
	TT による教師との関係の深まり	1

しての大人への憧れ] [インタビューを通じた「職業」や「働くこと」への親近感と憧れ] が、【郷土への誇りの芽生え】では [インタビューによる郷土への誇りの芽生え] [職場見学とインタビューによる郷土への誇りの芽生え] があがった。

【意欲的な姿勢】では [複数回にわたるワークシートの検討を通しての将来への希望の膨らみ] [生徒同士の学び合いによる主体的な学びの促進] [学習発表会による追究意欲の高まり] のほか、職業体験など職業に従事する大人と

の関わりによる成果に [参画型職業体験による主体的態度の高まり] [職場体験を通じた、よりよく生きようとする態度の形成] [多くの職業との触れ合いを通して、夢に向かってよりよく生きていこう、よりよい自分になろうとする態度の形成] [真摯に働く大人たちに接することによる努力することへの志向性]、地域住民との関わり・交流による成果に [インタビューを通じた郷土のよさの発信への意欲の芽生え] [地域の実情把握や他者との触れ合いによる目的意識の高まり] [真摯



に働く地域住民との交流による意欲的な姿勢の形成」[地域住民へのインタビューによる職業や仕事への具体的な希望の芽生え][地域住民へのインタビューによる日常生活向上への姿勢の形成]もあがった。【意欲的な姿勢】は対象文献9件のうち8件(No. 1～8)が成果にあげ、【興味・関心の芽生え】については対象文献9件のうち3件(No. 2～4)が成果にあげた。

【現実への志向性】では[ゲストティーチャーの講話による夢の具体化と夢の現実化への気づき][「憧れの職業人」や「夢の職業人」からの回答による将来への具体的志向性][地域住民との交流による自らにできることを追求する態度の形成]があがった。

さらに、働くことに関係した【目標への方法・方略の理解】では[話し合いを通した価値観の多様性と価値観の働くことへの影響の理解][インタビューによる将来の夢の決定に向けた方策の多様性への理解][調べ学習による目指す職業に就くための過程の理解]、加えて【働くことの意味】では[いくつもの職場訪問を通しての勤労観・職業観の形成][働く人の講話による働くことの意味の理解]や[職場体験を通した、どの仕事も責任とプライドを所有することの気づき][学級のめあて(目標)を通しての働くことの意味の理解]があがった。

自分自身に関係した成果では、【自らの生き方との対峙】に[インタビューを通じた生き方の見直し][話し合いを通しての生き方の振り返り][見学先の人々との交流による生き方の振り返り]、そして【自分探し】に[ワークによる自分の「強み」の気づきと目指す未来像の追求][教師との対話による自分の「強み」の発見と「強み」の複層的把握]

や[「わたしマップ」と「みらいびと」(「未来の働き方」を実践する人との出会い)の活動のリンクによる、自分らしさの再構築]、【自己理解】に[全体での意見交流による自己理解の深化][全体での意見交流による自己像の相違の自覚]があがっていた。

そのほか、【キャリア教育における基礎的・汎用的能力】で[体験的活動を通したキャリアプランニング能力の向上][自己への気づきや困難を乗り越えるスキル学習による自己管理・課題対応能力の向上][協同的な学びによる人間関係形成・社会形成能力の向上]、【充実感・満足感】で[成功体験を通して感じた働くことへの充実感・満足感][仲間づくりへの援助による充実感]、【肯定的な評価を通した達成感】では[肯定的な評価を通して得られた達成感]、さらに【ものの見方の深化】では[多様な視点を介したものの見方の深化]、【教師との関係の深まり】では[TTによる教師との関係の深まり]があがった。

### 3. 授業実践の課題

授業実践の課題を表3に示した。

課題には、【授業時の効果的な働きかけ】で[個人作業のスムーズステップ化によるワークシートの開発][演習時のわかりやすい説明の工夫][文章の書き方の説明の工夫]、そのほか[身近な地域住民対象の職業についてのインタビュー活動の一層の充実][職業についてのインタビュー活動による子どもの変化が実感できる手立ての工夫][基礎的・汎用的能力を育む指導の検討]、また[個人作業のつまずきの補い]、【つながりのある体制づくり】で[各教科のねらいとキャリア教育の4能力領域をクロスさせた指

表3 授業実践の課題

課題	課題の内容から抽出した事項	文献 No.
授業時の効果的な働きかけ	個人作業のスムーズステップ化によるワークシートの開発	1
	演習時のわかりやすい説明の工夫	1
	文章の書き方の説明の工夫	1
	身近な地域住民対象の職業についてのインタビュー活動の一層の充実	2
	職業についてのインタビュー活動による子どもの変化が実感できる手立ての工夫	2
	基礎的・汎用的能力を育む指導の検討	7
	個人作業のつまずきの補い	1
つながりのある体制づくり	各教科のねらいとキャリア教育の4能力領域をクロスさせた指導計画の充実	3
	全教育活動に関連付けた教育課程の編成の必要性	4
	小・中学校の連携の点から、具体的な指導計画の作成や共通の教材の開発等の重要性	4
	人的ネットワークの構築	1
授業プログラムの改良	キャリア教育につなげる単元構成の追究	5
	教材開発と体験の精選等による授業内容の質の向上と汎用化の必要性	8
	総合学習のプログラムの構造化	9
授業の効果の検証	育成すべき能力を測定する尺度の妥当性の検討	9
	単元開発・プログラム化の継続と有効性の検証	6

導計画の充実〕〔全教育活動に関連付けた教育課程の編成の必要性〕〔小・中学校の連携の点から、具体的な指導計画の作成や共通の教材の開発等の重要性〕、そのほか〔人的ネットワークの構築〕が、【授業プログラムの改良】では〔キャリア教育につなげる単元構成の追究〕〔教材開発と体験の精選等による授業内容の質の向上と汎用化の必要性〕〔総合学習のプログラムの構造化〕があがった。また、【授業の効果の検証】には、課題に〔育成すべき能力を測定する尺度の妥当性の検討〕〔単元開発・プログラム化の継続と有効性の検証〕があがった。

#### IV. 考察

総合学習におけるキャリア領域の実践研究の特徴を捉えた上で、総合学習の授業時の教える側の指導方法の工夫と課題を検討するため、授業の導入・展開時に必要な学習への意識づけと学習の深まりの工夫、授業実践の課題について考察する。総合学習は多様な領域から構成され、筆者らは健康、福祉、国際理解、防災領域の授業実践の成果に通じる工夫と課題について領域を超えた共通性と領域ごとの相違を明らかにしてきた。そのため、本研究においても、総合学習のキャリア領域の指導方法の特徴を明確にするため、筆者らの行った総合学習の4領域の文献検討（松本ら，2020，2021，2022，2023）の結果を踏まえその異同を検討する。これらの比較を通して、多様な領域からテーマが構成される総合学習の今後の授業づくりや総合学習の実践研究における工夫と課題の一般化、体系化への寄与が期待できると考えられる。

##### 1. 実践研究からみたキャリア領域の総合学習の実施状況

平成30年度公立小・中学校の教育課程の編成・実施状況調査（文部科学省，2019）から総合学習の具体的な学習内容をみると、キャリア領域は小学校で66.5%、中学校で95.3%であり、多くの学校で行われていた。中学校では、進路指導との関連から行われていない学校はないと言ってもよい状況にある。ただし、本研究では、小学校の実践研究が対象文献9件のうち7件（No. 2～8）と多くを占め、中学校の文献は皆無であった。対象学年は、小学4年生が1件（No. 6）のみで、そのほか小学5・6年生が1件（No. 5）、小学6年生が5件（No. 2～4，7，8）、高校1年生が1件（No. 1）、高校2年生が1件（No. 9）であり、

高学年以上での実施が対象文献9件のうち8件とおおよそを占めていた。

授業の総時間数は11時間から70時間とかなり差があり、これは健康、福祉、国際理解、防災領域の文献検討（松本ら，2020，2021，2022，2023）において同様で、総合学習が学校裁量である点に関係していると考えられる。

研究目的では、地域と関連させた実践が対象文献9件のうち3件（No. 5～7）であり、3件の文献ともに小学生を対象としたものであった。小学校の校区を生かして、身近な地域社会の中で様々な役割を果たしている人に関わることを起点に、どのように社会と繋がり、関わっていくのかを志向したキャリア教育が行われていると思われる。

##### 2. 学習への意識づけと学習の深まりへの工夫

児童生徒の学習への意識づけを育むことに関係した【興味・関心の芽生え】は対象文献9件のうち3件が、【意欲的な姿勢】は対象文献9件のうち8件が該当した。これは、健康領域の関連では対象文献5件のうち4件、国際理解領域では対象文献8件のうち7件、防災領域では対象文献7件のうち5件、福祉領域では対象文献8件のうち4件が該当した（松本ら，2020，2021，2022，2023）。キャリア領域においても、学習への意識づけを育むために【興味・関心の芽生え】【意欲的な姿勢】に重点を置いていることは、各領域と同様であり、総合学習の特徴が見出されている。

なお、本研究で【意欲的な姿勢】は、ほぼ全ての対象文献であがった。キャリア領域では、【意欲的な姿勢】を見出し、その後児童生徒がそれぞれの生き方に関連づけて意識変容や行動変容が生じることを想像すると、【意欲的な姿勢】はキャリア領域では欠かせないものであると思われる。【意欲的な姿勢】の工夫による成果をみると、職業体験等を通して働く人の姿に感化されていく〔参画型職業体験による主体的態度の高まり〕〔職場体験を通じた、よりよく生きようとする態度の形成〕〔多くの職業との触れ合いを通して、夢に向かってよりよく生きていこう、よりよい自分になろうとする態度の形成〕〔真摯に働く大人たちに接することによる努力することへの志向性〕は職業体験からの学びであった。〔インタビューを通じた郷土のよさの発信への意欲の芽生え〕〔地域の実情把握や他者との触れ合いによる目的意識の高まり〕〔真摯に働く地域住民との交流による意欲的な姿勢の形成〕〔地域住民へのインタビューによる職業や仕事への具体的な希望の芽生え〕や〔地域住民へのインタビューによ

る日常生活向上への姿勢の形成]、そして【郷土への誇りの芽生え】の[インタビューによる郷土への誇りの芽生え]と[職場見学とインタビューによる郷土への誇りの芽生え]は、体験の中でも地域住民との関わりからの学びとして見出された。これら工夫による成果は、小学校の実践研究から見出されたことに一定の留意は必要であるが、こうした学びを随所に埋め込みながら【意欲的な姿勢】を形成していく取り組みがキャリア領域では必要であると思われる。

さらに、これも小学校の実践研究に限られたが、キャリア領域では、具体的に【働くことへの理解】や【目標への方法・方略の理解】、自分に引き付けて【自らの生き方との対峙】【自分探し】【自己理解】をしながら、【現実への志向性】を図っていることがうかがえた。働くことの多様なあり様が見えにくい分、働くことへの理解に始まり、どのようにすればその職業に就けるのかなどを体験的に学ぶこと、児童生徒が自らの現在・これからを見つめ、どのようにありたいかを思考しながら、【現実への志向性】として[ゲストティーチャーの講話による夢の具体化と夢の現実化への気づき][「憧れの職業人」や「夢の職業人」からの回答による将来への具体的志向性]や[地域住民との交流による自らにできることを追求する態度の形成]が可能となっていくと思われる。

キャリア教育が、「生き方の教育」を志向しアイデンティティ形成に関わるため、こうした一連の行程はとりわけ小学校段階から必要であるとも考えられる。そして、この行程においては、身近な職業に接し社会と繋がりがあい、学びを深めていく点で地域住民との関わりが欠かせないことを付言しておきたい。

### 3. 授業実践の課題

本研究では、授業実践の課題として健康、福祉、国際理解、防災領域であがった【授業時の効果的な働きかけ】【授業プログラムの改良】【授業の効果の検証】が、また、防災領域を除く上述の3領域であがった【つながりのある体制づくり】があがっていた。とりわけ本研究では、他の領域に比べ【つながりのある体制づくり】が4件と多くあがっていた(松本ら, 2020, 2021, 2022, 2023)。**【つながりのある体制づくり】**は、[全教育活動に関連付けた教育課程の編成の必要性]や[各教科のねらいとキャリア教育の4能力領域をクロスさせた指導計画の充実]にみられるように、キャリア領域では生き方全体を視野に入れているため他の領域に比べ各教科や全ての教育活動に関連させることが必

要であり、**【つながりのある体制づくり】**が校内体制の整備の点からより求められていると思われる。また、学校外の[人的ネットワークの構築]による体制整備により、様々な職業と触れる機会等を視野に入れた取り組みが求められていることも推察される。これらの課題はカリキュラム・マネジメントに関係している点からも、今後の学校教育における推進が目指されるところである。

註1) カリキュラム・マネジメントは、以下の3つの側面から捉えられている。

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列すること、②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること、③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること(文部科学省, 2017)。

本研究において利益相反は存在しない。

### 対象文献

- 長谷川亜耶. (2015). 総合的な学習の時間 郷土愛を育み、自己の生き方や将来について考える単元開発 — 佐渡学にキャリア教育を位置付けた単元開発と児童の変容 —. 教育実践研究, 25, 253-258.
- 池田利充. (2015). 総合的な学習の時間 キャリア教育で育てる自己のよりよい生き方を目指した新たな単元開発とその有効性 — キャリア教育の視点によるマトリクス表を活用した第4学年総合「道を歩く」の実践から —. 教育実践研究, 25, 241-246.
- 笠原祐樹. (2016). 総合的な学習の時間 小学校高学年におけるキャリア発達を目指した総合的な学習の時間の単元開発 — 地域との「参画型職業体験学習」を通して —. 教育実践研究, 26, 241-246.
- 川村孝樹. (2019). 総合的な学習の時間 汎用的能力の素地をつくるキャリア教育の在り方の考察 — 自己理解とキャリアプランニングに焦点を当てた「わたしみらい」の実践から —. 教育実践研究, 29, 235-240.

大里智子. (2019). 〈院生研究報告〉総合的な学習の時間におけるキャリア教育 —キャリアプランニングと困難を乗り越えるスキルに着目して—. 弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)年報, 1, 55-64.

関和則. (2008). 総合的な学習の時間 未来を見つめ、夢をもち努力する子どもを育成するキャリア教育の在り方 —6年「12歳のハローワーク：なぜ勉強するのか」の実践—. 教育実践研究, 18, 217-222.

田原早苗. (2007). 総合的な学習の時間 よりよい生き方を目指す子どもを育てるキャリア教育 —キャリア教育の視点から見つめ直す総合的な学習の時間—. 教育実践研究, 17, 169-174.

和井田節子. (2005). 高校総合学習におけるキャリア教育の実践的研究 —実践評価を通じたカリキュラム開発の留意点—. 日本高校教育学会年報, (12), 67-76.

渡邊進. (2006). 総合的な学習の時間 小学校から始めるキャリア教育の取組 —6年 総合的な学習の時間「12才のハローワーク」の実践—. 教育実践研究, 16, 197-202.

## 文献

中央教育審議会答申. (2016). 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について. 2023-8-16. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)

藤田晃之. (2018). キャリア教育とは何か —その意義と必要性—. 吉田武男(監修), 藤田晃之(編), キャリア教育(pp. 1-4). ミネルヴァ書房.

松本訓枝, 長瀬仁美, 山本真実. (2020). 「総合的な学習の時間」の実践研究における工夫と課題 —健康領域の文献からの検討—. 岐阜県立看護大学紀要, 20(1), 121-128.

松本訓枝, 山本真実, 長瀬仁美. (2021). 「総合的な学習の時間」の実践研究における工夫と課題 —福祉領域の文献からの検討—. 岐阜県立看護大学紀要, 21(1), 203-211.

松本訓枝, 長瀬仁美, 山本真実. (2022). 「総合的な学習の時間」の実践研究における工夫と課題 —国際理解領域の文献からの検討—. 岐阜県立看護大学紀要, 22(1), 93-101.

松本訓枝, 山本真実, 亀山智加枝ほか. (2023). 「総合的な学習の時間」の実践研究における工夫と課題 —防災領域の文献からの検討—. 岐阜県立看護大学紀要, 23(1), 95-102.

文部科学省. (2017). 新しい学習指導要領の考え方 —中央教育審

議会における議論から改訂そして実施へ. 2019-8-1. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716_1.pdf)

文部科学省・教育課程部会. (2018). 総合的な学習の時間の成果と課題について 平成30年10月1日資料2-1. 2019-8-1. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/10/10/1409925\\_4.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/10/10/1409925_4.pdf)

文部科学省. (2019). 平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査の結果について. 2019-8-1. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1415063.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1415063.htm)

村川雅弘. (2018). 総合的な学習の時間の趣旨と教育課程上の位置付けの変遷. 大学テキスト開発プロジェクト(編), 総合的な学習の時間の指導法(pp. 16-19). 日本文教出版.

日本教師教育学会. (2005). 「研究論文」と「実践研究論文」の区分に関する申し合わせ. 2019-10-10. [https://jsste.jp/aboutus/rules/editorial\\_committee/section\\_agreement/](https://jsste.jp/aboutus/rules/editorial_committee/section_agreement/)

(受稿日 令和5年8月24日)

(採用日 令和6年1月4日)